（1）主　眼　　等分除の場面におけるわり算の答えを、半具体物を使わずに求める活動を通して、商はかけ算を用いて見つけることができることに気づく。
（2）準備物　　ワークシート　児童用おはじき　黒板提示用おはじき　黒板提示用皿の絵　個人用ホワイトボード
（3）学習の展開

教師の働きかけ	予想される児童の反応	学習活動・内容
前時の学習：等分除の場面での除法の意味を考えた。		
・導入時、３、４年に同一の素材を取り扱い、学級全体に共通の学習をしているという一体感をつくる。 ・分かっていることと分からないことを線で色分けをさせることで、問題文の意味を捉えさせる。 ・立式にとまどっている児童には、ポイントとなる言葉（「同じ数ずつ分ける」）に注目させる。	・「同じ数ずつ分ける」のだから、わり算だな。 ・何算にしたらよいかよく分からないよ。	１　問題文を読み、立式する。 《問題文》（３、４年共通） ４０このあめを、５人で同じ数ずつ分けます。 １人分は何こになりますか。 ・分かっていること 「４０このあめを、５人で同じ数ずつ分けます。」 ・分からないこと 「１人分は何こになりますか。」 ・式　４０÷５
・一人指名し、前で発表させる。	・５枚のお皿に一つずつおはじきをおいていくといいよ。	２　おはじきを使って、４０÷５の答えを求める。 ・答え　８こ
おはじきを使わないで、４０÷５の答えを見つける方法を考えよう。		
・課題の確認を、リーダーを中心に進めさせることで、効率化を図るとともに、両方の学年に適時、支援ができるようにする。 ・考えを自分なりに個人用のホワイトボードに書かせる。 ・早くできた児童には、発表の練習をさせる。 ・かけ算を使うことに気づいてはいるが、考えがそこでとどまっている児童には、なぜ、かけ算で答えが導けるのかを考えさせる。 ・自力解決が難しい児童には、着眼点をヒントカードや助言により示す。	・おはじきを使わないということは、計算で答えを見つけるのかな。 ・どのように考えたらよいかよく分からないよ。 ・かけ算を使えば答えが分かるよ。 ・なぜ、かけ算を使うと答えが出るのだろう。	３　半具体物を使った操作をしないで、４０÷５の答えを求める方法を考える。 ・□×５＝４０ １人に１個 …１×５＝５ １人に２個 …２×５＝１０ ≀ １人に８個 …８×５＝４０
・一人一人ホワイトボードを黒板に提示させ、それをもとに説明させる。（評価①） ・途中までしかできていない場合も、できているところまで発表させる。 ・説明がうまくできない児童には、説明の補足をする。 ・児童の考えをもとに、商の見つけ方をまとめる。 ・答えの見つけ方をワークシートにまとめさせる。	・説明するのは難しいよ。 ・友達の考え方と自分の考え方は似ていたよ。	４　自分の考えを発表し、わり算の答えの見つけ方をまとめる。 ・４０÷５の計算は□×５＝４０の□にあてはまる数が答えになる。
・教科書の問題ができたら見せにくるよう指示する。（評価②）	・式が９÷３なので、□×３＝９の□にあてはまる数が答えになるのだな。	５　練習問題をする。 ・教科書の問題（上P３９①） ・補充問題
次時の学習：包含除の場面での除法の意味を考える。		

（4）評価
①４０÷５のわり算の答えを見つける方法を、かけ算を用いて考えることができる。（数学的な考え方）
②等分除の場面で、かけ算を用いて商を求めることができる。（表現、処理）

（1）主　眼　　わり算の答えを、半具体物を使わずに求める活動を通して、（何百何十）÷（何十）の答えは１０を単位として考えると見つけることができることに気づく。
（2）準備物　　ワークシート　児童用おはじき　黒板提示用おはじき　黒板提示用皿の絵　１０円玉の模型　おりがみの１０枚のたば　個人用ホワイトボード
（3）学習の展開

学習活動・内容	予想される児童の反応	教師の働きかけ
前時の学習：（２，３位数）÷（１位数）の計算の復習をした。（１学期に学習）		
１　問題文を読み、立式する。 《問題文》（３、４年共通） ４０このあめを、５人で同じ数ずつ分けます。 １人分は何こになりますか。 ・分かっていること 「４０このあめを、５人で同じ数ずつ分けます。」 ・分からないこと 「１人分は何こになりますか。」 ・式　４０÷５	・「同じ数ずつ分ける」のだから、わり算だな。 ・何算にしたらよいかよく分からないよ。	・導入時、３、４年に同一の素材を取り扱い、学級全体に共通の学習をしているという一体感をつくる。 ・分かっていることと分からないことを線で色分けをさせることで、問題文の意味を捉えさせる。 ・立式にとまどっている児童には、ポイントとなる言葉（「同じ数ずつ分ける」）に注目させる。
２　おはじきを使って、４０÷５の答えを求める。 ・答え　８こ	・５枚のお皿に一つずつおはじきをおいていくといいよ。	・一人指名し、前で発表させる。
４００÷５０の答えを簡単に見つける方法を考えよう。		
３　４００÷５０の答えを簡単に求める方法を考える。 ・１０円玉を使って考える。 ４０÷５ ・１０のたばで考える。 ４０÷５	・わられる数とわる数の０を１つずつ隠して計算してみよう。 ・どのように考えたらよいかよく分からないよ。 ・前に１０円玉で考えたことがあるよ。	・課題の確認を、リーダーを中心に進めさせることで、効率化を図るとともに、両方の学年に適時、支援ができるようにする。 ・考えを自分なりに個人用のホワイトボードに書かせる。 ・早くできた児童には、発表の練習をさせる。 ・１０のまとまり以外の方法で考えている児童には、その考えを認めた上で他の方法も考えるように指示する。 ・自力解決が難しい児童には、着眼点をヒントカードや助言により示す。
４　自分の考えを発表し、（何百何十）÷（何十）の答えの見つけ方をまとめる。 ・４００÷５０の答えは、４０÷５の答えと同じである。	・説明するのは難しいよ。 ・友達の考え方と自分の考え方は似ていたよ。	・一人一人ホワイトボードを黒板に提示させ、それをもとに説明させる。（評価①） ・途中までしかできていない場合も、できているところまで発表させる。 ・説明がうまくできない児童には、説明の補足をする。 ・児童の考えをもとに、商の見つけ方をまとめる。 ・答えの見つけ方をワークシートにまとめさせる。
５　練習問題をする。 ・教科書の問題（下P３①） ・補充問題	・１６０÷４０は１０円玉で考えると１６÷４になるのだな。	・教科書の問題ができたら見せにくるよう指示する。（評価②）
次時の学習：（何百何十）÷（何十）の計算であまりが出る場合について考える。		

（4）評価
①わり算の答えを見つける方法を、10を単位として考えることができる。（数学的な考え方）
②（何百何十）÷（何十）の計算ができる。（表現、処理）